

## 会 議 結 果 の お 知 ら せ

令和6年度第2回宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会を次のとおり開催しました。

令和6年8月29日

宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会

### 1 開催日時

令和6年8月19日（月） 午後4時～午後6時

### 2 開催場所

宮古市市民交流センター 1階 会議室1・2

### 3 議題

- (1) 令和5年度宮古市市民意識調査の結果について
- (2) 第3期人口ビジョン（素案）について
  - ① 第1回委員会ワークショップの結果について
  - ② 第3期人口ビジョン（素案）に係る意見集約結果について
  - ③ 第3期人口ビジョンの将来人口推計について
- (3) 第3期総合戦略の施策体系について
- (4) ワークショップ

### 4 会議の概要

別添のとおり

### 5 問い合わせ先

企画部企画課地域創生推進室 電話0193-65-7056

## 令和6年度第2回宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会

### 1 出席者（17名）

和川央、三河輝夫、芳賀桃子、山本美鈴、花坂雄大、渡部玲子、鈴木ちほ、井田裕基、佐々木秀崇、村木海公、長岡輝、赤沼悦子、加藤洋一郎、石川巧、中沢翔馬、成瀬賢紘、伊藤綾

### 2 欠席者（8名）

武藤勝久、赤沼喜典、上野宏介、川又講平、伊東喜幸、井川由貴子、菅野悟、伊藤雄基、

### 3 事務局出席者（5名）

企画課長 箱石剛、同課地域創生推進室長 竹田真吾、  
同課主任 田中与土、同課主任 千葉志美、同課主任 佐々木英明

### 4 傍聴者

なし

### 5 議事等

#### (1) 令和5年度宮古市市民意識調査の結果について

令和5年度の調査結果の概要について事務局から説明した。質疑等は別紙のとおり。

#### (2) 第3期人口ビジョン（素案）について

##### ① 第1回委員会ワークショップの結果について

第1回委員会で実施したワークショップのとりまとめ結果について事務局から説明した。質疑等はなし。

##### ② 第3期人口ビジョン（素案）に係る意見集約結果について

委員から寄せられた意見集約結果と意見に対する対応方針について事務局から説明し、事務局案のとおり承認された。質疑等は別紙のとおり。

##### ③ 第3期人口ビジョンの将来人口推計について

独自推計に基づく人口目標案について事務局から説明し、事務局案のとおり承認された。質疑等は別紙のとおり。

#### (3) 第3期総合戦略の施策体系について

第3期総合戦略の施策体系等の骨子案について事務局から説明し、事務局案のとおり承認された。質疑等は別紙のとおり。

#### (4) ワークショップ

次回以降に実施するワークショップの目的や手法等について事務局から説明した。質疑等は別紙のとおり。

質疑応答内容

質問・意見	回答
<p>【議題(1)「令和5年度宮古市市民意識調査の結果について」】</p> <p>(委員)</p> <p>若年層に絞った分析は行っているか。資料としてあった方が今後のワークショップ等の参考資料になると思うが。</p> <p>(委員)</p> <p>全体として前回調査から愛着度、定住意向ともに低下している。市として低下についての原因や要素等に対し、例えば年代問わず全体的な低下傾向にあるものか、実は特定の年齢層が影響を及ぼしているなど、受け止め方はどうか。</p> <p>【議題(2)「第3期人口ビジョン(素案)について」／① 第1回委員会ワークショップの結果について】</p> <p>&lt;質疑なし&gt;</p> <p>【議題(2)「第3期人口ビジョン(素案)について」／② 第3期人口ビジョン(素案)に係る意見集約結果について】</p> <p>(委員)</p> <p>人口減少や少子高齢化が与える影響の共有という部分に係る事務局の対応は、人口ビジョンの本体で記載せず、後段の総合計画の部門別計画で整理するということか。</p> <p>(委員)</p> <p>意見の趣旨は問題意識の共有が重要であるということと思う。計画の中で市民との共有化をはかっていただきたい。(意見)</p>	<p>(事務局)</p> <p>今回は概要版の資料をお示ししたもので、本日資料として用意はしていないが、ホームページでは詳細な結果を公表している。今後の議論の参考資料として用意することで調整したい。</p> <p>(事務局)</p> <p>どのような要素が低下をもたらしたかについては、現在、次期総合計画基本計画における部門別計画の策定作業中であり、この部門別計画策定において個々の分野で分析評価をしているところ。</p> <p>(事務局)</p> <p>人口ビジョン本体では総論として主な影響を語ることになるかと思う。人口減少や少子高齢化が与える影響は非常に幅広い分野に及ぶものと考えられるため、詳細な部分は部門別の計画の中で語るものと考えている。</p>

【議題(2)「第3期人口ビジョン(素案)について」/③第3期人口ビジョンの将来人口推計について】

(委員)

人口ビジョンにおいて人口減少を抑制していくという目標に異論はないが、一方で総人口が減っていく中でも市民が幸せに暮らすかたちを追求する道や視点もあると思う。

今回の資料でハッピーエンド、バッドエンドという表現があったが、ハッピーエンドのための条件が、高めの設定をしている印象を受けた。今後成果を検証していったときに、その数値的な結果だけをもってして目標を達成できなかったと評価するのではなく、ある側面では良い方向に進んでいる部分もあるという評価も同時に検証していけるような計画になればと思う。また、最悪のパターンということも想定したリスクマネジメントは、企業であれば一般的に行うものと思う。市の施策もそういった悪い状況になった場合も想定して施策展開することが重要と思う。

(事務局)

社人研の最新の推計結果を基に自治体の持続可能性が議論され、当市は「消滅可能性あり」という診断となっている。これを受け、市としてはまず消滅危機からの脱却を図る必要があるという思いのもと、パターン別に推計をしたうえでハッピーエンドの想定を目標に描いた。また、総数だけで語ると想像し難いと思うが、推計結果を人口構造で見ると、高齢世代を支える若年層の人口が減少するという社人研推計の結果である。この人口構造では、行政サービスの低下や社会保障費の増大など、様々な面でアンバランスが生じることが容易に想像できるかと思う。この人口構造の足元の部分である年少人口や若年世代人口の人口減少を増やすという視点が必要という思いである。

また、次期人口ビジョンにおいては、総数として2万8千人を目指すという方針は示しつつ、パターン別の推計結果についても資料として全てお示しすることで、今後の人口推移に対応すべき施策展開は何か、など様々な視点で議論できる土台となればと考えている。

付け加えると、委員ご指摘のとおり、人口が減るという現象が必ずしも全てマイナスに働くということではなく、良い方向に働く面もあるかと思う。前回のワークショップでも様々な意見が出たが、人が減る中で技術革新による業務の効率化が進み、マンパワーを別の部分で発揮できるなど、明るい面も出てくるかと思う。計画においてはそういった視点も持ちながら策定を進めたい。

(委員)

国や研究機関では結婚意向調査のようなものを実施しているが、市で同様の取り組みは実施しているか。結婚にハードルを感じている要因などが分かれば対策のヒントになるのではないか。

(委員)

市として目指す人口を示すのは重要。一方で最も恐れるべきは、計画を途中段階で評価してく中で、設定した目標が高すぎたがために、早い段階で達成困難という状況が明白となり、残りの計画期間が敗戦処理の状態に陥ること。したがって、目標値達成の道筋にある出生率や社会減について、どうなった場合に達成されるかという合理性、妥当性を示すことで計画の正当性が高まるものと思う。

(意見)

(委員)

市の人口減少対策の視点をまとめると、社会減対策と自然減対策の両輪だと受け止める。これまでも都市部への若年層の人口流出を抑える必要があるとの議論はされてきたかと思うが、実績としては計画通り進んでいないという印象を受ける。この点に関し、人口減少対策は市町村レベルの取り組みだけ

(事務局)

高校2年生を対象としたアンケートを毎年実施している。昨年度の数字を口頭で紹介すると、回答数303のうち「将来結婚したい」が189で62%、「結婚したくない」が31で10%、「分からない」が80で26%となった。一昨年度と比較すると結婚したいという割合は低下傾向。結婚したくない理由の内訳を見ると、最も多いのが「必要性を感じない」で32%、2位以下は「自由さや気楽さを失いたくない」で29%、「趣味や娯楽など1人を楽しみたい」が16%となっている。「収入面が不安」という項目もあったがゼロであった。このことから、仕事と育児の両立を収入面で考える傾向になく、自由なライフスタイルを重視する傾向にあるものと思われる。

(事務局)

人口問題は国レベルで取り組む問題であるという認識であり、その点は委員と同様の考えである。それと同時に、国に対し、国策として人口減少対策を推進するように働きかけを行いながらも、全て国任せではなく、地方にもできる限りの取り組みをやらざるを得ない状況にあるという認識である。

では中々難しく、国家的な動向、社会の体系の変化なども必要になってくるのではないかと思うところがあるが、市としてその点はどうか考えているか。

(委員)

国の施策の方向性に対し自治体レベルでの施策がマッチしているか検証することで議論が深まるかと思う。(意見)

【議題(3)「第3期総合戦略の施策体系について」】

(委員)

数値目標を今後設定するとのことであるが、設定した数値目標を達成したのに関わらず、人口は目標水準を下回ったということがないように目標を設定してもらいたい。

(委員)

総合計画が最上位計画という前提がある中で、総合戦略の方針を総合計画の各分野に反映するという図式に個人的に矛盾を感じている部分がある。今回、具体的な施策は関連図で示すということだが、総合戦略の関連事業として施策を進める中で、戦略との関連性という部分が希薄になるのではないかと憂慮するところ。しっかりと関連付いた事業として成果を検証できるような体制が構築されるよう取り組みを進めてもらえればと思う。

社会減については国内の人口の奪い合いになってしまっている状況であるが、対策を何もしないと人口減少は加速する一方であることが明白であり、地方にできることをしっかりと対策する必要があると受け止めている。

(事務局)

戦略に掲げる数値目標は、人口ビジョンで描く30年後の人口目標に向けた、直近5年間の取り組みの成果目標を数値化するものと受け止めていただければと思う。その視点で、今後お示しする数値目標やKPI等について、整合性を図る必要があるものがあれば忌憚なくご意見いただければと考えている。

(事務局)

第2期戦略においても戦略体系と基本事業の関連性は戦略の中で示してきたものの、毎年度の行政評価と戦略の成果検証が別々に動いていたという点は反省すべきところと思う。第3期は戦略の方針が反映された総合計画の事業という部分を新たに関連図で示すことで、より戦略との関連性が明確になることを期待している。また毎年度の評価検証についても行政評価と連動したものとなることで、より効果的な取り組みができるのではないかと考えている。

(委員)

人口減少に対する対策には、減少と食い止めようとする対策と、減少する中でどうやってより良い暮らしを実現するかという2つの目線があるかと思う。第2期の戦略はどちらかというところと前者の取り組みに特化したものであり、後者の取り組みは総合計画でカバーしていたという印象。第3期戦略は第2期と比較し対策の目線がかなり拡がり、総合計画の目指すところとかなり近づいてきているなという印象を受ける。総合計画と戦略の住み分けというか整理というものをどう考えるか。

(委員)

国のデジタル田園都市国家構想でも強調されている「デジタル」について、今回の戦略にワードが協調されていないように感じられるが、市の戦略ではどのようにデジタルの取り組みを戦略に反映していくのか。

(委員)

デジタルのワードが一つもないのが気になる。ワードが入っていないことで取り組みが鈍化することを危惧するが。

#### 【議題(4)「ワークショップ」】

(委員)

市の取り組みに限定せず「強み」や「弱み」などの要素を洗い出すというのがワークのポイントの一つとして示されているが、市の取り組みは重要な関心事項であり、ワークを進めるうえで現在の市の取り組みなど、資料として情報提供してもえるか。

(事務局)

総合計画と総合戦略は表裏一体に近いものと捉えている。あえて言うところ施策の目指す視点の違いという部分で、総合計画に対し人口減少の切り口で施策の方針や方向性を示し、総合計画に反映する役割を持つものが総合戦略になるかと思う。

(事務局)

国の構想はデジタルの力で人口減少対策や地方創生を加速化させるというもの。市の戦略においても、施策の展開としてデジタルの手法を活用していくことになる。

(事務局)

デジタルについては戦略体系図の全ての分野に関わってくる。体系にデジタルの推進等のワードを入れ込むというよりは、各施策を展開する手法として各方面にデジタルの導入を進めるといったように、総論として明示することになる。

(事務局)

資料提供により議論の方向がそこに集中するなどミスリードになりかねないという考えから市の取り組みを資料提供することはあえてしない考えである。ワークをする中で必要な情報があればインターネット上の情報を確認しながら進めていただければと思う。

(委員)

昨年度行ったワークショップでも、市の良い取り組みが中々市民に広がっていないという意見も多くあったため、そういった部分に時間をとられなければ良いかなという思いがある。

(委員)

強み、弱みを洗い出すのに、比較対象がないと議論が難しいのかなと感じる。他の自治体と比較すると見えてくる強みや弱みもあると思う。

(委員)

市民意識調査について、年代別アンケートの結果が20代のみの資料では掲載されていない。今回のワークの参考として、20代のみのアンケート結果が分かればと思うが確認できる方法はあるのか。

(事務局)

情報発信の低さは行政側も向上を図る必要があると感じているところ。逆にその情報発信力の低さという部分を「弱み」として要素にあげていくといったように、委員の皆様が感じる宮古市の現状について、より多くの要素を洗い出していただくことが重要な目的と理解していただければと思う。

(事務局)

繰り返しとなるが、事前の資料提供は考えていない。特定の取り組みに対し比較対象を市側が抽出することで、その部分だけに議論が集中する恐れがあるとの考えである。ただし、議論していく中で比較が必要となる場合等があれば対応可能なものは資料提供していくことといたしたい。

(事務局)

アンケート結果の詳細なデータを確認のうえ、後ほどお示ししたい。